#### 何気ない一言で…

# 岐阜県各務原市立那加中学校 三年

#### 後藤 曖弥

「おはよう。気をつけていってらっしゃいね。」

は、私には衝撃的でした。
は、私には衝撃的でした。
の人が知り合いなのか聞いてみました。母から出た言葉れを見て、さっきの人が知り合いなのがだんだん恥ずかしくなっていました。同に登校しています。母は、その後も、通りすがりの人に挨拶をしていました。同じ学校の人もいて変に思われているのではないかと、いつもヒヤヒヤしていた。私はそんな母の隣で歩くのがだんだん恥ずかしくなっていました。同じ学校の人もいて変に思われているのではないかと思いました。私はいつも母と一緒時に、私の母は少し変なのではないかと思いました。私はいつも母と一緒に見たことのない高校生の人でした。知らない人に挨拶をする疑問と同私ではない誰かに話しかける母の声を聞いて驚きました。母の知り合い私ではない誰かに話しかける母の声を聞いて驚きました。母の知り合い

の子からもしてくれるよ。」「名前は知らないんだけど、挨拶したら返してくれるんだよねー。時々あ

するようになりました。その日から私は、母のあとについて挨拶を温かい行動に見えてきました。その日から私は、母のあとについて挨拶をそれを見て、それまで変だと感じていた母の行動が、人と人の心をつなぐ、日を重ねるにつれ、どんどん母と高校生の人は仲良くなっていきます。たのです。それを聞いて、私はさらに母は変わった人だと思いました。でも知り合いならまだよかったのですが、名前も知らない人に挨拶をしてい

する勇気がなく、そのまま通りすぎようとした時、はすぐに、いつも母と挨拶をしている人だとわかりました。自分から挨拶ある日、一人で帰っていると、見たことのあるおばあさんがいました。私

「おかえりなさい。」

さんにも自分から挨拶ができるようになりました。か恥ずかしく、言いにくかったけど、今では通りすがるおじいさん、おばあ」と返すと、おばあさんはにっこりと笑ってくれました。それまでは、どこと言われたのです。少しびっくりしたけど嬉しかったです。私も「ただいま。

るだろうし、余裕じゃん、と思いました。三年生フロアに上がって行くと、る』という内容でした。教室に入れば、友達とか知っている子もたくさんい私の学校でも、挨拶のキャンペーンがありました。『一日三人に挨拶をす

思いました。 田いました。 とてもかっこよく見えました。そして、素直にすごいとが、良い日になるような気がしました。彼は、誰に対しても、キャンペーンが、良い日になるような気がしました。彼は、誰に対しても、キャンペーンかが、良い日になるような気がしました。なんだか、これから始まる今日という日ました。私はその人と一回も話したことがなかったのです。それなのに、あー人の男子が目に入りました。そして、挨拶してくれました。びっくりし

思います。今、SNSなどで「あったかさ」が広がっていくと良いなと小さなことでよいから、私はこの『あったかさ』が広がっていくと良いなとることが、その人にとって何かが変わるきっかけになるかもしれません。合う温かさというのは何気ない一言にあったのです。朝、誰かに挨拶をす母の挨拶も、彼の挨拶も、人の心を温かくしました。人と人の心が通い

。価値観がすれ違うのはしか ます。挨拶もその一つです。 のために』自分のできること さなことでもいいから『誰か と心の底から思います。その も優しい社会になると良いな ために少しでも頑張っていき 私も、私たちの生きる世界の ん集まれば、大きな力になり す。その小さなことがたくさ をやっていくとよいと思いま ために、みんなが、どんな小 なくても、人と人の心が通い でも、顔が見えていても、 たがないのかもしれません。 酷い言葉が飛び交っています しいと思います。どんな人に 合う温かさを大切にしてほ



## 岐阜県各務原市立稲羽中学校 三年

草分こはる

くはないのではないでしょうか。ぜ伝統があるのか。」、「行う意味とは何なのか。」はっきりと答えられる人は、多きっとどの地域にもあると思います。しかし、伝統行事やしきたりと聞いて、「な皆さんの住んでいる地域には、今も受け継がれている伝統や行事はありますか。

ます。 今日は、そんな地域の伝統について、皆さんに今一度考え直してほしいと思い

当たり前ではなく幸せだったのだと改めて気付かされました。 私の住んでいる町内には、様々な伝統行事があります。その中でも特に思い入 私の住んでいる町内には、様々な伝統行事があります。その中でも特に思い入 当たり前ではなく幸せだったのだと改めて気付かされました。 当たり前ではなく幸せだったのだと改めて気付かされました。 当たり前ではなく幸せだったのだと改めて気付かされました。 当たり前ではなく幸せだったのだと改めて気付かされました。 出たの中でも特に思い入 私の住んでいる町内には、様々な伝統行事があります。その中でも特に思い入

染みついたリズムを呼び起こすように、何度も何度も叩いて見せました。そのう弟は、全体練習が始まる前、同級生を家に呼んで自主練をしていました。体に

かったので、リベンジしたいという思いもありました。見て、私も手伝う事を決めました。私は小学生最後の夏祭りに和太鼓を叩けなをして和太鼓を叩いていた弟が、いつの間にか皆に教える立場になっている姿をちに、以前のように力強く叩いて合わせられるようになっていきました。背伸び

た。私の夏は、和太鼓と摺り鉦の音です。として、全体練習がスタート。以前、和太鼓を叩いていた子達はほとんどが進た。私の夏は、和太鼓と摺り鉦の音です。私が小さかった頃、教えてもらったという声が聞こえてきました。二日目は、一部分ですが皆で合わせてみました。そいう声が聞こえてきました。二日目は、一部分ですが皆で合わせてみました。それらった時の皆が心で繋がるような感覚は、あの時と同じ、畳と汗の匂いがしました。私の夏は、和太鼓と摺り鉦の音です。

時、何だか、家族の絆が繋がった様な気がしました。の間にか楽譜を暗記し、声を張り上げ、合いの手を入れながら教える姿を見た声を出すことの珍しい父が、朝早くから練習の準備をする姿がありました。いつたことがありませんでした。ですが、ここで生まれ育った訳でもない、普段大きな父の出身は、新潟県です。今まで和太鼓の練習には、仕事の為、一度も参加し

時間を過ぎてでも伝えたかった事。私は、本物の伝統に触れました。本番は迎えられませんでしたが、母が大きな声で音頭を取り、父が会社へ行く

子どもたちに受け継ぐものではありません。地域も繋げたいと考え、世代を越えて大切にされてきたものです。伝統は、お年寄りが長い間ある伝統には、必ず意味があります。先人たちが心を動かされ、未来に

年齢も、関係無いのです。

す。

ない、地域や伝統を知り、愛してほしいと思いまたちがそうであった様に、汗と笑顔を光らせながら太たちがそうであった様に、汗と笑顔を光らせながら太たちがそうであった様に、汗と笑顔を光らせながら太渡っていることを願っています。その時には、かつて私渡っていることを願っています。その時には、かつて私

私は、伝統を未来に繋げたいです。



#### 家族と仲間と支え合う

## 岐阜県各務原市立鵜沼中学校 三年

#### 佐藤志

背中を押してくれている。私が不安でいっぱいの時は、「志ちゃんは味方がいっぱ ていた。母や父は私と同じく体が強いとは言えなかったからこのつらさをきっと が起き上がれない時や、不安でいっぱいだった時はずっとそばで寄り添ってくれ 将来につなげていくための高校を真剣に考え始めた事もその時だ。だから私は 実現させるため、絵に対する気持ちが大きくなるたび絵を描き続けた。それを 描くことを将来仕事にしたいと強く思うようになっていた。だから私はその夢を 倦怠感も頭痛も少し和らいでいた気がした。ほぼ毎日絵を描いた。スケッチブッ さえ出来なくなっていた。私は、友人に会うことが出来ない寂しさと、いつ治るか としか出来なかった。日に日に病状は重くなりいつもなら起き上がり学校の支 この病気は中学生になりやすい病気で倦怠感、吐き気、頭痛などを発生する恐 家族の事が大好きだったが、今ではとてつもなく大好きで大切に存在になってい 家族のおかげだ。今では家族に感謝の言葉でいっぱいになっている。昔はもちろん いいるから前だけ見ていればいいよ。」と教えてくれた。絵が大好きになったのも 道に進みたいと言った時も、「大丈夫。きっと志ちゃんならできるよ。」と今でも た。私に合う勉強のやり方を一緒に考えてくれた。そばにいてくれた。私が絵の わかっていたんだと思う。だから学校に行けない日は、両親が勉強を教えてくれ 少し前向きになれた。他に支えとなっていたのは家族の存在だ。私がつらくて体 クなど画材が増えて私は絵を描くことが大好きになっていた。その時、私は絵を 言われ私は絵を描き初めた。それが正解だった。絵を描いている時は、吐き気も きな事をしてみたら?もしかしたら嫌な事や不安な事を忘れられるかも。」と 活に戻れなくなるのではないかと頭を抱えていた。そんな私を支えてくれた事の わからない不安で私はこのまま不登校になってしまうのではないか、いつもの生 度をしている時間帯のはずなのに起立性調節障害になってから起き上がること れがあり不登校になる学生も少なくない。私は一年生の半年間、家で過ごすこ 一つは、趣味である絵を描くことだった。私が不安でいっぱいだった時、母に「好 私は、中学一年生の春頃にある病気を患った。起立性調節障害という病気だ。

> う。確かにこの病気は、私を蝕んでいた。しかし、この病気があったから絵を描き 不安があった。しかし、それはもう消えたのだ。これは私一人の力ではない。ずっ ていたのだと実感した。私は初め、このまま不登校になってしまうのではという み出すことが大切だと知った。何より親友や家族とのかけがえのない絆が深まっ 続けたいと将来の夢の一つを見つけることができた。下ばかり見ず、前に一歩踏 気が再発するかもしれない。それでもきっと私は前向きな気持ちで過ごすだろ じた。親友との絆が深まったとわかった。これでもう不安や寂しさは無い。もちろ くれた。会えない日は電話で話してくれた。改めて私は良い親友に出会えたと感 て安心感があふれた。勇気をもらったのだ。その後も友人は、何度も何度も来て いるからね。」と言ってくれた。その時、私に抱えていた不安の文字がすぐに消え で心を満たした。そんな私を友人は「志ちゃんは志ちゃんのペースでゆっくり治 人がいた。それも一人ではなく何人も来てくれたのだ。それを聞くと私は嬉しさ き覚えのある声が聞こえた。重い体を起こして玄関の扉から外をのぞくと私の友 仲間との関わりに私は頭を抱えた。そんなある日、家の外から「志ちゃん!」と聞 る。しかし、友人に会えない寂しさと不安は全て取り除かれたわけではなかった。 んすぐに治るわけではないし、偏頭痛はこれからも患っていく。またいつかこの病 していってよ。私は本当はね少しでも早く会いたいけれど私はいつまでも待って

と寄り添い支えてくれた家族、いつも勇気をくれた親友の存在が私の持っていた不安をされた親友の存在が私の持っていた不安をされた親友の存在が私の持っていた不安はたくさんいる。でも決して諦めないでほしい。現状ばかり見るだけでなく、目標を造りい。現状ばかり見るだけでなく、目標を造りい。現状ばかり見るだけでなく、目標を造りなうにもならない時がある。しかし、一人ではあい。現状ばかり見るだけでなく、目標を造りい。現状ばかり見るだけでなく、目標を造りい。現状ばかり見るだけでなく、目標を造りいるがある。しかし、一人ではない。現状ばかり見るだけでなく、というにもない。

るだろう。



#### 母親にだって感情はある

### 岐阜県各務原市立緑陽中学校 三年

#### 清水 賢

して、子どもに説教をすると思います。
言を吐いてしまった人もいるに違いありません。そして母親は、怒りをあらわにきを吐いてしまった人もいるに違いありません。そしてついには、母親に暴する場面は多々あり人生で一度は起きてしまいます。そんな時、母親をウザイ数で母親に怒られた時や、自分の今後の進路を否定された時など、母親と衝突数で母親に怒られた時や、自分の今後の進路を否定された時など、母親と衝突

を出せない人物だと思います。悪い姿を見せたくないとかがあるのかと思いました。つまり、母親は本来の感情見せないのか、想像してみると、自分が子供の鏡になるのだとか、子どもに格好の。」という泣きたい感情がどこかにあると思います。でも、どうしてその感情をその時の母親の立場にたつと、怒りだけでなく、「どうしてそんなことを言う

)。 なぜ自分がそこまで断言できるのかというと私の経験から感じたことだからで

の喧嘩のようでした。まるで、昨日の自分と母との様子をみているようでした。し、もともと運動神経がよくないため、ペアの子にいつも迷惑をかけていました。し、もともと運動神経がよくないため、ペアの子にいつも迷惑をかけていました。方きたくない気持ちをぐっとこらえて、自分の部屋を出ました。お果は、思っていた通り、母は何も話さず、リビングでは会話の声なんて一切聞こえませんでした。た通り、母は何も話さず、リビングでは会話の声なんて一切聞こえませんでした。た通り、母は何も話さず、リビングでは会話の部屋を出ました。おりに私は、足で存を鳴らし、「母さんなんて嫌いだよ。」と言って自分の部屋に駆け込みふて寝をはてしてしまいました。そのまま時間がたち、朝になりました。家族のいるリビングにたのです。母親は大い気持ちをぐっとこらえて、自分の部屋を出ました。母も無視をしてくるだろうし、自分からも何も話さないでおこうと思いました。おとも決意したのです。母親は大い高持ちをぐっとこらえて、自分の部屋を出ました。母も無視をしてくるだろうし、自分からも何も話さないでおこうと思いました。おりに私は、思っているだろうし、自分からも何も話さないでおこうと思いました。おりに入いとした。とれているようではないといるようによりにはいるようによりではいるようによりによりによりによりました。とれているようによりによりによりによりによりによりによりによりによります。

「そっとしておけ。」と言われ、そのまま学校へ行きました。寝室に戻っていきました。自分は心配で、寝室に行こうとしましたが、父から、最後は姉が暴言を吐き、家を出ていきました。その時の母は、目に涙を浮かべ、

ました。その姿を見た時、自分も泣き出してしまいました。
ることを忘れるくらい、自分を抱きしめ、部屋を満たすくらいの大粒の涙で泣きわると、閃光の速さで家に帰り、昨日の行動を謝りました。すると母は、母であ沈んでいってしまいます。そう思うと、母のことがどんどん心配になり、学校が終を話せる時間や場はありません。挙句の果てには暴言を吐かれて、どんどん心が母は、家事に子育て仕事など、すべてを背負って生きているため、家族にも本心

母との交流がまえより増えました。
母は前より本当の気持ちを話してくれるようになりました。それにともなって、気を取り戻し、またいつもの日常になりました。私はこの日常が大好きです。ないかと思いやめたことなど、本心を話してくれました。その後母は、いつもの元かったことや、暴言をはかれた時、追いかけたかったけど、さらに嫌われるんじゃかったことや、暴言をはかれた時、追いかけたかったけど、さらに嫌われるんじゃかったことや、暴言をはかれた時、追いかけたかったけど、さらに嫌われるんじゃかったことや、暴言をはかれた時、追いかけたかったけど、さらに嫌われるんじゃかったことや、暴言をはかれた時、追いかけたかったけど、さらに嫌われるんじゃ

いけれど、心のどこかではその言葉を聞きたいと思っています。嘩をしたらすぐに謝ることです。謝ってもすぐには許してもらえないかもしれなこのような経験をした私から、みなさんに伝えたいことがあります。家族と喧

次に、家族の中で誰もが本音を出し合える環境を作ってください。人は全部が

できます。これこそが家族というものでい。話すことで勇気をもらい前へ進む事がせん。だから、少しでも対話をしてくださに感情というものは制御することはできま完璧ではないのです。親だってそうです。特

す。
もし、今苦しいことがあるのなら、ぜひ家族に話してみてください。友達や周りの人族に話してみてください。友達や周りの人



#### 幸せな家庭

## 岐阜県各務原市立蘇原中学校 三年

高木 梓

で、幸せと感じない子もいます。だから、幸せの形は一つだけとは言えま世の中には、両親が居ても虐待を受ける子がいます。両親が居ても不仲しかし、両親が居たら、必ず幸せとは言い切れないと私は思います。ではないでしょうか。もちろんそういう家庭も「幸せな家庭」なのでしょう。は父が居て、母が居て、そこに子供も居る。そんな家庭を思い浮かべるの皆さんは「幸せな家庭」と聞いてどんな家庭を想像しますか。多くの人皆さんは「幸せな家庭」と聞いてどんな家庭を想像しますか。多くの人

庭」なのではないでしょうか。も、その人自身が幸せと思えていたらそれがその人にとっての「幸せな家も、その人自身が幸せと思えていたらそれがその人にとっての「幸せな家い家庭はどうでしょう?どんな家庭環境でも、周りの人に何と言われて世の中には色々な家庭があるのです。反対に、片親の家庭、両親がいな

私の家は母子家庭です。今まで学校で、自分は母子家庭だと言うと「なも、普通に接するということがとても幸せの形があることを理解し、どんな家庭環境の子でも幸せだからです。本当にありがとう。確かに今の世の中では片親家庭びれているし、母と祖父母と妹との生活は、喧嘩することはあっても、と送れているし、母と祖父母と妹との生活は、喧嘩することはあっても、と送れているし、母と祖父母と妹との生活は、喧嘩することはあっても、とがが人それぞれに幸せの形があることを理解し、どんな家庭環境の子で人が人それぞれに幸せの形があることを理解し、どんな家庭環境の子で人が人それぞれに幸せの形があることを理解し、どんな家庭環境の子で人が人それぞれに幸せの形があることを理解し、どんな家庭環境の子でも、普通に接するということがとても大切だと思います。

りました。どんな家庭でも虐待が起きる可能性はあります。そして、このえており、令和元年度の虐待相談件数は十九万三千七百八十件までにな計がとられ始めてから、児童相談所が対応した児童虐待の件数は毎年増聞などでよく見かけます。厚生労働省によって児童虐待の相談件数の統私がこのように考える一方で、最近、「虐待」という言葉をニュースや新

べることで、「幸せな家庭」を増やすことができるのではないでしょうか。受ける多くの子供達が笑顔で過ごせるように、周りの大人が手を差し伸ように虐待を受ける子供達は幸せとは思えていないと思います。虐待を

にとれるような場所に置いておいを増やしたり、各学校で誰でも手が定められています。一人一人がもっと意識することが定められています。一人一人がもっと意識することが必要なのです。そが定められています。一人一人がもっと意識することが必要なのです。その言語では学校でたまに配布される、相談出来る場所の電話番号が書た、誰かに相談したいけれど中々出来ないという子もいると思います。その言語では学校でたまに配布される、相談出来る場所の電話番号が書た、誰かに相談したいけれど中々出来ないという子もいると思います。との言語であることが言言にとれるような場所に置いておい

たりするなどの工夫ができると思います。他にも、アメリカでは虐待います。他にも、アメリカでは虐待いがあった家庭に対して、できる限があった家庭に対して、できる限があった家庭に対して、できる限があった家庭に対して、できる限があった家庭に対して、できると思います。他にも、アメリカでは虐待によっ。

増やしていきましょう。 笑顔で過ごせる「幸せな家庭」を 虐待家庭を減らして子供達が

一度考えてみてください。せな家庭とはどんなものですか。ました。では、あなたにとっての幸ました。では、あなたにとっての幸「幸せな家庭」について話をしてき



#### 肉を食べる

# 岐阜県各務原市立中央中学校 三年

どつら舜引よ、ハウごと思いまけれ。 青山 さわね

4。に陳列されたとき?みなさんは、その瞬間について考えたことがありますに陳列されたとき?みなさんは、その瞬間について考えたことがあります動物の命が尽きたとき?食用のお肉として加工されたとき?スーパー皆さん、動物がお肉に変わる瞬間は、いつだと思いますか。

あります。 私は、動物がお肉に変わる瞬間を知っています。その瞬間を見たことが

達からは、野生にいる動物や鳥のお肉のことです。ジビエを食べていると話すと、友野生にいる動物や鳥のお肉のことです。ジビエを食べていると話すと、友ゃんの頃から、母が捕ったジビエを食べています。ジビエとは、鹿や鴨など我が家ではめったにスーパーでお肉を買いません。その代わり、私は赤ち

「鹿や猪のお肉をいつも食べているなんて、凄いね。」

が食べているお肉も、その少し前までは、同じ「動物」だったのですから。はありません。なぜなら、皆さんがいつも食べているお肉も、私たち家族と言われることがあります。しかし、私は、これが凄いことだと思ったこと

てきて、が休みだった私が、雪山に行きたいと母に頼むと、母がなぜか鉄砲を出しが休みだった私が、雪山に行きたいと母に頼むと、母がなぜか鉄砲を出し、中学一年生の冬。私は初めて母と銃を使った狩りに出かけました。学校

「山に行くなら、ついでに鹿を捕ろう。」

頭がいっぱいでした。と言ったのです。その時の私は、あまり深く考えず、雪山で遊ぶ楽しみでと言ったのです。その時の私は、あまり深く考えず、雪山で遊ぶ楽しみで

母は鹿にナイフを刺して、血を抜きました。そして、私は言われるがまめが狙った場所に近づくと、そこには、ちゃんと鹿が横たわっていました。山の空気を震わせました。銃声が山の中にこだまするより速く、鹿の身体がれた場所から不思議そうにこちらを見つめています。母は私に目で合楽しんでいると、ふいに鹿の姿が目に入り、思わず息を飲みました。鹿は母の背中には、当たり前のように銃がありました。二人でしばらく雪山を母の背中には、当たり前のように銃がありました。二人でしばらく雪山をリュックを背負って、かんじきを履いて、母と雪山に入りました。そんなリュックを背負って、かんじきを履いて、母と雪山に入りました。そんな

) というでは、これが、私にとって、生き物がお肉に変わった瞬間でうな熱を感じました。そして、それと共に「これが、命のあった「証」なんだ。だ温かい鹿の肉が私の手に触れた瞬間、私は手に、まるで火傷したかのよまに鹿の足を持ち、解体の手伝いをしました。凍えるほど寒い雪山で、ままに鹿の足を持ち、解体の手伝いをしました。凍えるほど寒い雪山で、ま

いお肉はこうしてできているのです。を奪われ、人の手によって処理されます。私たちの食卓に並べられた美した牛にも体温が…たった一つの命があります。その命は、人間によって熱寒い雪山で一生懸命生きてきた鹿にも、牛舎の中で大切に育てられてき

係ありません。 「スーパーで買ったお肉だから、ということは関ます。そこにジビエだから、スーパーで買ったお肉だから、ということだと思いる。それだけです。どんなお肉も「感謝」して大切に食べる。美味しいな、?SDGSのため?いいえ、違います。母の捕ったお肉がおいしいから食べう。では、なぜ、私たち家族がジビエを食べると思いますか?栄養のためなぜわざわざ自分たちで狩りをするのか、疑問に思う人たちもいるでしょなぜわざわざ自分たちで狩りをするだけのお肉がたくさん売っているのに、スーパー等に行けば、調理するだけのお肉がたくさん売っているのに、

私の両親はよく「自分が動 私の両親はよく「自分が動 がよりも上だとは思わない。」 かよりも上だとは思わない。」 かあります。命を頂いた相手に があります。そんな当たり 命があります。そんな当たり っと美味しく、楽しく、大切に る。そうすることで、お肉がも る。そうすることで、お肉がも る。そうすることで、お肉がも る。そうすることで、お肉がも る。そうすることで、お肉がも

いただいた命に感謝して。 今日も私はお肉を食べます。



#### 吃音症と向き合って

## 岐阜県各務原市立川島中学校 三年

戸谷 唯柔

「吃音症」という障がいを知っていますか。

す。今日は、僕が吃音症と向き合ったことについて話したいと思います。障がいなのでみなさんの周りにもいるかもしれません。そして、僕もその一人でい言葉があったりする障がいのことです。「吃音症」は、百人のうち一人程度ある「吃音症」とは、話し始める時に初めの一音で詰まったり、言いにくくて言えな

じような感情になったことがきっとあると思います。 でようにで音症を抱える方も同い感情を、何百回、何千回こらえました。僕と同じように吃音症を抱える方も同い感情を、何百回、何千回こらえました。僕と同じように吃音症を抱える方もにい感情を、何百回、何千回こらえました。それが苦しくて、授業で分とがあってもなかなか話せないことに気付きました。それが苦しくて、授業で分とがあってもなかなか話せないことに気付きました。それが苦しくて、授業で分とがあってもなかなか話せないことに気付きました。それが苦しくて、授業で分とがあってもながない。」「自分の思いを伝えたい。」「自分の思いを伝えたい。」「自分の思いを表した。」「自分の思います。

うまく言葉が出てこないとき、両親は

ん。| 「ゆっくりでいいよ。ゆっくり。唯希が伝えたいことを、自分の速さで話してごら

るようで安心しました。を今でも覚えています。そして何より、「僕は僕のままでいいんだ」と言われていうまく感謝も伝えられなかったです。でも、涙がこぼれそうなほど嬉しかったのと、僕の言葉を、嫌な顔せずにいつまでも待っていてくれました。あのときは、

そして、僕はその日「吃音症だからといって、自分の可能性を諦めない」と決意らどうしよう」などと心配していたのが嘘みたいです。「悪口を言われたらどうしよう」などと心配していたの所であります。そんな時、僕はなんて恵まれているんだろう。」と思うのです。「悪口を言われたます。先生方は、僕の言葉が結まって頭が真っ白になってしまう時もあります。でも、見るようにしています。川島中学校の仲間は、僕の話を真剣な表情で聞いてくれ見るようにしています。川島中学校の仲間は、僕の話を真剣な表情で聞いてくれ見るようにしています。川島中学校の仲間は、僕の話を真剣な表情で聞いてくれ見るようにしています。川島中学校の仲間は、僕の話を真剣な表情で聞いてくれるようにしています。川島中学校の仲間は、僕の話を真剣な表情で聞いてくれるようにしています。周のことが嫌いになって、明らの一様性を諦めない」と決意らどうしよう」などと心配していたのが嘘みたいです。

です。 だけ、「戸谷唯希」という一人の人間として、大切にしてくれているのが分かるのだけ、「戸谷唯希」という一人の人間として、大切にしてくれているのが分かるの当に温かい優しい人ばかりだ」ということです。僕の言葉を待ってくれている時間「吃音症の僕」だからこそ感じられたこと。それは、「仲間も先生も、みんな本

「支え合って生きる」その言葉の裏には、相手皆さんの中にも自分なりのコンプレックスを抱えている人いるかもしれません。

かい心が大切だと僕は思います。の障がいも含めて「個性」だと受け止める温

では、これからも「吃音症だから」といって 関は、これからも「吃音症だから」といって で話していきます。弱さも障がいも一つの個性 として、受け止められる社会を創っていくこと が僕の夢です。今、勇気を出してみなさんの が僕の夢です。今、勇気を出してみなさんの がで話しているのも、その夢の実現の一歩だ を考えています。誰もが堂々と生きられる社 と考えています。誰もが堂々と生きられる社 と考えています。誰もが常々と ときるの実現を目指し、自分の声と言葉で、これ からも思いを発信し続けていきます。



# 岐阜県各務原市立桜丘中学校 三年

江川 音桜

になったのは父のある言葉でした。 この目標を立てるきっかけれを書き留めておくことを目標にしています。この目標を立てるきっかけいたクラスの仲間の良さの数です。新学期が始まってひと月も経たないうとうと言う仲間、自主学習を毎日続ける仲間。これは三週間で私がみつとうと言う仲間、自主学習を毎日続ける仲間。これは三週間で私がみつとうと言う仲間、自主学習を毎日続ける仲間。これは三週間で私がみつとうと言う仲間、自主学習を毎日続ける仲間。これは三週間で私がみつとうと言う仲間、自主学習を毎日続ける仲間。これは三週間で私がみつとうと言う仲間、自主学習を毎日続ける仲間。これは三週間で私がみつとうと言う仲間、自主学習を毎日続ける中間。

何回も諦めずに続けるうちにきっと何とかなるから。」「勉強を頑張ろうと努力していることが大事なんだ。不器用なところは、

れたのが父の言葉です。 れたのが父の言葉です。 ができないことを痛感していました。そんな私にかけら抱えることしかできませんでした。さらに、私の兄弟は何でもうまくこなくなっていきました。悩んで悩んで、でも誰にも相談できなくて、一人で苦手です。何度も同じことで怒られると、いつしか主体的に動くことが怖私は何かを上手にすること、人と上手くコミュニケーションをとることがあるたには苦手なことがありますか?勉強、スポーツ、絵を描くこと。

ではないでしょうか。 でいる部分に目を向ける、 でれこそが大切だけを見るのではなく、 努力している部分に目を向ける、 でれこそが大切 にいる部分に目を向ける、 でれこそが大切 にいる言葉は私を大きく変えました。 人の苦手なところ、 できないところ

も何も変えることはできません。私とあなたが苦手を克服する努力をしです。でも、私一人では何も変わりません。私だけが変わろうと努力して克服しようと頑張っている人を見つけ、認めることができる人になりたい分に目を向けるのです。私は苦手を克服できる人になりたいです。苦手をるためには、見つけようという意識が必要です。意識してその人の良い部人の苦手や嫌な部分には目が向きがちです。それに比べ、良さを見つけ

す。この活動は、学校みんなで取り組んでいます。「私とあなた」で。するこの活動は、学校みんなで取り組んでいます。「私とあなた」であったででで、学級で、モニターを使って全校で。私が初めて良さを紹介された時間は見ていてくれたと思うと、少し恥ずかしくて心が温かくなりました。のことを今も覚えています。自分では当然だと思っていた些細な行動を仲間な見ていてくれたと思うと、少し恥ずかしくて心が温かくなりました。毎月「良さ見つけ」の取組みをしています。そして良さを交流しています。この私の思いは、今の桜中の生徒会の思いに重なります。私たちは今、なくてはいけません。そしてお互いの良さを認め合う努力を。

は自分の励みにもなるのです。とさんか。良さはこれまでの仲間の頑張り。仲間の頑張りを見つけることす。良さを見ようとすると、その目が養われます。人の欠点よりも良いと相手をより知ることにつながり、さらに自分にも取り入れることができま相手をより知ることにつながり、さらに自分にも取り入れることができまれることがのます。それは

たの良さに気付いている人がても諦めないでください。あなもしあなたが今、何かに努力して、それが認められていないと感じてい

ましょう。私とあなたで。 認め合える社会を創っていきは仲間の良さに溢れています。 はかませんか。きっと周りる人、いませんか。きっと周りに努力しています。



### 「できること」に目を向ける

# 岐阜県各務原市立中央中学校 三年

山田 遥都

は多くの人が抱えた感情だと思います。 やりたいことができないもどかしさ―。コロナ禍を過ごした三年間。それやりたいことができないもどかしさ―。コロナ禍を過ごした三年間。それ

後の選手リレー。僕の夢は閉ざされ、とても悲しい気持ちになりました。ての開催で、僕が望んでいた形での運動会はありませんでした。小学校最月に及びました。学校が再開しましたが、行事は中止もしくは形を変えンニングを日課にしていました。しかし、コロナで学校は休校。それは三かでした。六年生になり、最後の運動会も絶対に選手リレーに出たいと、ラー・小学校三年生から毎年出ていた運動会の選手リレー。これは僕の誇り

うやり場のない怒り。消化できない思いは溜まるばかりでした。さ。もし大会があったなら、次はよい結果が出せたかもしれないのにといりたいことができないのだろう。積み重ねてきた練習が無駄になった悔しンミスで失格。その悔しさを晴らしたいと思いましたが、コロナでその後の後間もなく大会があり、リレーを走る機会に恵まれましたが、なんとバト後間の中にしこりを残し、僕は中学生になって陸上部に入りました。入部胸の中にしこりを残し、僕は中学生になって陸上部に入りました。入部

のでは?」と戸惑いました。続けて先生はおっしゃいました。ラインで筋トレ?陸上部なのに、走らないトレーニングなんてつまらないオンライン筋トレをしよう」と提案してくださったのです。最初は、「オンできなくなりました。でも先生は、「集まって練習できないなら、みんなでは、陸上部の顧問の先生です。コロナ感染が拡大した当初、部活動は一切けれど、そんな僕を前向きな気持ちにさせてくれた人がいました。それ

やるだけだ。」 やるだけだ。」 からいと言い訳しても変わらない。今できることを全力で

いつの間にか前向きな気持ちに変わっていました。での部活動。仲間と離れていても、オンライン上で同じ時間を過ごせる安での部活動。仲間と離れていても、オンライン上で同じ時間を過ごせる安なりました。でも、僕たちの時間までは奪われていないのです。オンラインきるのかを考えているのだと気付いたからです。確かに、部活動は中止にこの言葉に僕ははっとしました。先生は、できないことではなく、何がで

た生の言葉や今と向き合う姿に、僕も「できなかったこと」や「うまくい 先生の言葉や今と向き合う姿に、僕も「できなかったこと」に囚われるのはやめて、何ができるかを考えるようになりました。このことは今の僕の行動に確実に表れています。陸上の練習は、かなかったこと」に囚われるのはやめて、何ができるかを考えるようになりました。このことは今の僕の行動に確実に表れています。陸上の練習は、でつながるよい機会に変えることができない、何ができるかを考えるようになと生の言葉や今と向き合う姿に、僕も「できなかったこと」や「うまくい

があるはずだ」と走り方を大きめるのは難しく、苦しいです。しかしできないと諦めずに「まだできることめるの僕の目標は百メートル走を十一秒台で走ることです。タイムを縮

ところまできています。 奏し、十一秒台まであと一歩のく変えてみました。これが功を

の挑戦はこれからも続きます。の挑戦はこれからも続きます。僕は、「できないことに目を向けてす。できることに目を向けても、何も変わりません。ですが、も、何も変わりません。ですが、できることに目を向けてはば、変わることが、新しい道がせば、変わることが、新しい道がせば、変わることが、新しい道がなく「できることに目を向けて動き出れる自分でありたい―。「できるれる自分でありたい―。「できること」の試行錯誤は進行中。僕の、「できること」に目を向けられる自分でありたい―。「できること」に目を向けられる自分でありません。ですが、



#### 奇跡の一本松の務め

## 岐阜県各務原市立鵜沼中学校 三年

姜 玟瑞

るよず! 「今旅立つ日 見える景色は違っても 遠い場所で 君も同じ空 きっと見あげ

思いをどのように汲み取ればよいか悩んだ。った仲間との思い出や絆を歌ったものだ。震災を経験したことがない私は彼らの開され、「群青」を歌うことになった。東日本大震災によって全国へ散り散りにな昨年、私の中学校ではコロナウイルスの蔓延によって中断されていた合唱が再これは私たちと同じ中学生が作詞した「群青」という合唱曲中の言葉だ。

は、津波とは何なのか。 像していたよりはるかに高いところに水が来ていた。何も知らなかった。地震と津波。濁った水の中に見える建物の屋根がそれと気づくまでに五秒かかった。想南三陸町の副町長だった方だ。私は自分の目や耳を疑った。十五メートルもの大南とた、東日本大震災で被災された遠藤さんのお話を聞く機会があった。

津波にのみ込まれた。 か学校の写真だった。逃げ遅れた児童や先生方がかに飛びこんできたのは大川小学校の写真だった。逃げ遅れた児童や先生方が

できなかった。 色の景色・・・。静かに見える海がどうなったか、理解することも想像することも 様子を思い出したのだ。大川小学校の校庭、荒れ果てた土地、見渡す限り続く茶 災ボランティアに行っていた。忘れていたことが嘘であるかのように鮮明に現地の これを見たとき、ふと五歳の記憶が蘇った。私は家族と知りあいの先生とで震

とができるのかを知ることができた。この活動を通して、地震被害への理解を深めると共に、どのような対策をするここの活動を通して、地震被害への理解を深めると共に、どのような対策をするこ地震が起きたとき、どう逃げるのかも考え、ポスターを作り、全校放送もした。委員会に入ることを決めた。過去の大震災や校区の危険箇所を調べた。実際に番青」へのヒントを得たいと思ったことと、大川小学校の記憶から縁を感じて、「群青」へのヒントを得たいと思ったことと、大川小学校の記憶から縁を感じて、「の後、私の中学校では生徒による防災訓練実行委員会をつくることになった。

のか知りたかったからだ。いと思うようになっていた。東日本大震災と私との縁がどのように結ばれているいと思うようになっていた。東日本大震災と私との縁がどのように結ばれているいつしか、幼い頃見たあの光景はどのように変わったのか、自分の目で確かめた

していた。ただ、海が見えないくらい高くそびえ立つ白い堤防と寂れた防災対策興を願う人々の思いが吹き込まれ、大津波の被害を感じられないほど町は復興九年経った今年の三月、私は再び南三陸町へ行った。何もなかった土地には復

にいたから残されたのではないだろうか。 求めた遺族の方もいたそうだが、この記憶を絶対に忘れないと願う人々が確か庁舎が際立って見えた。あの悲劇を思い出したくないという声が上がり、解体を

でいかなければならないと、そのとき思った。で終わっては、未来があった人々の思いを無駄にしてしまう。彼らの思いを紡いたことがひしひしと伝わってきた。どんなに無念だっただろう。これを見ただけ書いた「大川が大好きだ!」という言葉を見た。自分が生まれた場所を愛してい大川小学校も、今も同じ場所にある。そこで震災で亡くなったかつての児童が

から感じられたことだ。とが忘れないことだと信じたい。防災対策庁舎や大川小学校が今もそこにあるとが忘れないことだと信じたい。防災対策庁舎や大川小学校が今もそこにある震災を美化していると言われるかもしれない。そうだとしても、誰かに話すこ

強く思うようになった。地震が起きるという先人の知恵が伝わっていきないますがあい。これである。津波が起きたら一人で逃げろと言う。そして絶対に生き残って、必ずまた合おうと。過去の教訓を未来に紡いでいくために「あなたには何ができるのか」と問おうと。過去の教訓を未来に紡いでいくために「あなたには何ができるのか」と問おうと。過去の教訓を未来に紡いでいくために「あなたには何ができるのか」と問おうと。過去の教訓を未来に紡いでいくために「あなたには何ができるのか」と問おうと。過去の教訓を未来に紡いでいくために「あなたには何ができるのか」と問おする。津波が起きたら一人で逃げろと言う。そして絶対に生き残って、必ずまた合治く思うようになった。地震が起きる

新いでいこう。それが、残された私たち ない、大津波が襲い来るその瞬間まで、 をいた、大津波が襲い来るその瞬間まで、 をいた、 を対えてもらったのだから。 一生き残った松だ。なぎ倒される中、唯一生き残った松だ。なぎ倒される中、唯一生き残った松だ。なぎ倒される中、唯一生き残った松だ。なぎ倒される中、唯一生き残った松だ。なぎ倒される中、唯一生き残った松だ。なが最いでいた。私とあなたはこの一本松が、私たちを守り、教えてくれる被災者が、私たちを守り、教えてくれる被災者が、私たちを守り、教えてくれる被災者が、私たちを守り、教えてくれる被災者が、大津波が襲い来るその瞬間まで、 をいた、大津波が襲い来るその瞬間まで、



#### 「アイス、買いに行こうか」

## 岐阜県各務原市立川島中学校 三年

佐藤 心春

「アイス、買いに行こうか。」

るのか。何をしてあげるのが正解か分からないまま時間だけが過ぎた。よく私に「祖父のためになんかしてあげたら?」と言った。でも、自分に何ができ気が見つかった。酸素濃縮器という装置をつけて生活する日々が始まった。母はそれた当だり育力総くと思っていた五年前のまる日、社会に肺気腫という病

損得なんて一切考えず、私たちのために生きてくれた祖父。祖父の生きざま

ら…何一つ返せていないままだ。一つが思い出された。「何一つ返せていない。」――祖父にもしものことがあった許されなかった。不安でいっぱいだった。「祖父が私たちにしてくれたこと」の一つ変したという知らせが入った。でも、コロナウイルスの影響で、孫の私は面会すら変したの一月頃、祖父の入院が決まった。肺に穴が開いたらしい。三月には、急

ートフォンに顔を近づける私に祖父の言葉が聞こえた。話している。かすれた声で、もごもごと…。その言葉を聞き取ろうと、必死にスマ付けられていた。全然知らない人に思えるほどの祖父が、懸命に私たちに何かをた。スマートフォンの画面に映る祖父には、信じられないほどの数の医療器具がある日重苦しい家族の食卓に、祖父の付き添いをする父からテレビ電話が入っ

――-「アイス、買いに行こうか。」

いのか、よくわからない、生まれて初めての感情を抱えていた。た祖父の思いが心に沁み込んだ。溢れる涙を止められなかった。悲しいのか嬉し朦朧としている意識の中、これまで私たち家族を喜ばせようとして生きてき

して、家族と一緒にいる時間の分だけ、そんな時間が「当たり前」だと思ってしま「家族」それは、時々面倒だ。自分以上に自分のことをよく知っているから。そ

で、でも、ある時ふと、その当たり前が当たり前ではないことに気付く。その時、う。でも、ある時ふと、その当たり前が当たり前ではないことに気付く。その時、なるだろうか。今日が家族との最後の時間だとしたら、私にとってどう過ごすことを伝えていない自分。時々、自分の感情で、可愛くないことを言ってしまう自分。そんな自分ばかり浮かんでくる。あの時、母はどんな表情だったのかな。どんなそんな自分ばかり浮かんでくる。あの時、母はどんな表情だったのかな。どんなそんな自分ばかり浮かんでくる。あの時、母はどんな表情だったのかな。どんなそんな自分ばかり浮かんでくる。あの時、母はどんな表情だったのかな。どんなたな自分ばかり浮かんでくる。あの時、母はどんな表情だったのかな。どんなたな自分ばかり浮かんでくる。あの時、母はどんな表情だったのかな。どんなたな自分ばかり浮かんでくる。あの時、母はどんな表情だったのかな。どんなたな自分がないに対しないように、本当に大切にできている。でも、ある時ふと、その時間だとしても後悔しないように。

から「だれかのために尽くせる自分にない」という目標もできた。「命は永遠ではない」という当たり前のことにも気できる自分になれた。私は、これからも何度も家族とぶつかってしまうだろう。 そんな時は、今のこの気持ちを何度も 思い出し、素直に思っていることを伝え

「アイス、買いこうこうか。」切い払こしたら、どんな一日を過ごしますか。あなたと家族の過ごす最後の時間だとあるたと家族の過ごす最後の時間だと

いたに違いない。と同時にたくさんの愛情を受け取ってと同時にたくさんの愛情を受け取って祖父の手から渡された甘いアイス。それ「アイス、買いに行こうか。」幼い私に



### マスクによって失ったモノ

岐阜県各務原市立桜丘中学校 三年

水野大

「あの子って何を考えているのかな。」「あの子ってどんな顔をしているのだろう。」

るい、マスク生活が始まってからのことです。 そんなことを考えるようになったのは、新型コロナウイルスが猛威を振

しかし、それ以上に失ったモノが大きすぎました。した。コロナに感染するかもしれないという心配を和らげてくれました。て仲間との繋がりを。確かにマスクはウイルスから僕たちを守ってくれまちから大切なモノを奪ったからです。そう、僕たちの本当の自分を、そしみなさんは、マスクは好きですか。僕は嫌いです。なぜならマスクは僕た

てしまったような気がします。
でしまったような気がします。
でしまったような気がします。
でしまったような気がします。
のなります。
でいたとしても、顔の半分以上が隠されているため、相いくら「目」が与える影響力がより大きくなったのです。とはいえ、いそうです。表情はもちろん、しぐさや服装なども全て目からの情報は七パーセント、聴覚からが三十八パーセント、視覚からが五十五パーセントと言わいそうです。
でいたとしても、顔の半分以上が隠されているため、相いくら「目」が与える影響力がより大きくなったのです。とはいえ、いてら「目」が見えていたとしても、顔の半分以上が隠されているため、相いくら「目」が見えていたとしても、顔の半分以上が隠されているため、相いくら「目」が見えていたとしても、顔の半分以上が隠されているため、相いくら「目」が見えていたとしても、顔の半分以上が隠されているため、相いくら「目」が見えていたとしても、顔の半分以上が隠されているため、相いくら「目」が見えていたとしても、顔の半分以上が隠されている情報はとても、聴覚からが見いたとしても、顔の半分以上が隠されています。だからマスク生活でしまったような気がします。

が僕たちのマスクが外せない本音です。しかし、僕の学年には一人だけマスンとができる。マスクを取った顔を友達からどう思われるかが怖い。これそう感じているようです。そして僕も「マスクが嫌い。」と言いながらも、そそう感じているようです。そして僕も「マスクが嫌い。」と言いながらも、そだ。マスクを外すことが、下着を脱ぐのと同じように恥ずかしいと感じる昨年、「顔パンツ」という言葉が流行語にノミネートされ話題になりまし

を羨ましく感じました。さらに彼はと彼は答えました。そんな彼の堂々とした姿がとても格好よく、そして彼「これがありのままの自分だから、隠す必要なんてない。」ことにしたのか尋ねてみました。すると、

クを外して生活している友人がいます。その友人にどうしてマスクを外す

「思いっきり笑いたいから。」

れたままです。ではありません。マスクという仮面をかぶっており、僕たちの本音は隠さ話せるからよいという人もいるでしょう。しかしそれは本当の僕たちの姿心理的にも壁を作ってしまいます。マスクをしていては物理的にだけでなく、話すことが必要だと思います。マスクをしていては物理的にだけでなく、けでは分かりません。本当の気持ちを伝え合うには、互いの顔を見合い、と続けました。「思いっきり笑っているかどうか」を判断するには、「目」だ

マスク生活が始まる前の生活に戻りたい。ありのままの自分を知ってほしい。もっと本当の自分を知ってほしい。 ちっと本当の自分を知ってほしい。 おっと本当の自分を知ってほしい。 おって失ったモノを取り返したい。 おって失ったモノを取ることには少ん。 やはりマスクを取ることには少ん。 やはりマスクを取ることには少ん。 やはりでます。 しかしマスクを取ることには少んが。 そしてありのままの自分を好きになりませんか。 そしてありのままの自分を好きになりませんか。 そしてありのままの自分を好きになりませんか。 きていきませんか。

隠す必要なんてない。」「これがありのままの自分だから、



#### 家族の在り方

### 岐阜県各務原市立稲羽中学校 三年

長屋 星来

「おはよう。」

いう存在の大切さ、ありがたさを見失っていました。
いう存在の大切さ、ありがたさを見失っていました。
がで伝えられるだろうか。最近、そのようなことをよく考えるようになりました。
かで伝えられるだろうか。最近、そのようなことをよく考えるようになりました。
かで伝えられるだろうか。最近、そのようなことをようになってしまいました。
で仲直りができる「ごめんなさい。」が言えない。どうしたら自分の思いを言葉ので仲直りができる「ごめんなさい。」が言えない。とった一言は一個では、おはようとあいさつしなきゃ、と朝は不機嫌になることが多い私。心の中では、おはようとあいさつしなきゃ、と父と母のいつもと変わらないあいさつを聞いて、私の一日は始まります。

の会話は続くのに家族との会話を続けることが難しいと思うようになりました。 があった昔。どんな些細な話でも笑い声が響き、盛り上がっていました。会話を す。家族の誰が話題を持ち出そうと、会話はすぐに途切れてしまいます。友達と しない時間がないほど、楽しい会話が永遠に続いていました。ですが、今は違いま か、何を話したらよいか、未だに分かりません。話が尽きないほど話したいこと かし、会話が減った原因に気付いたものの、どのように話題を持ち出したらよい たのではなく、会話がないから仕方なくスマホを触っている、ということです。し とに気付きました。それは、スマホを触れるようになったから会話が減ってしまっ た。」などの短い応答になったりしてしまいます。これらのことから、私はあるこ 画面。そのため、話しかけられていることに気付かなかったり、「うん。」や「分かっ ンをとることが一般的だと思います。ですが、私の家族の目線の先にはスマホの するときは、お互い、顔を見て、その人の表情からも判断して、コミュニケーショ う一つあります。それは、一人一台、スマホを持つようになったことです。会話を 族との会話も減ってしまいました。会話が減った原因として考えられることがも でいました。ですが、今は私の部活の練習などの都合により、みんなとの時間が した。以前は、夕飯前であっても家族全員が自然と食卓に集まり、会話を楽しん 員が家にいる時間帯を家族全員で共に過ごせるように私が幼い頃に立てられま 過ごす時間を大切にできたのは、我が家にとある約束事があるからです。それは、 で笑い合える時間は私にとって、とても幸せな時間でした。あの頃の私が家族と 合わず、家族全員で夕飯を食べることが少なくなってしまいました。その分、家 「夕飯のときは、家族全員が揃って食べる。」ということです。この約束は家族全 そんな私ですが、数年前までは、家族との何気ない会話を楽しみ、家族みんな

いいった可じ重引なたらは。「おかえり。今日、学校どうだった。」難しいと思う場面は他にもあります。それは、学校からの帰宅後のことです。

といつもと同じ質問をする母。

「楽しかった。

と毎日同じ答えを一言で返す私。

ができ、家族の会話も増えます。その日の都といきだと分かっていても、このような知い会話を続けているのだろうか。今まで、私を楽しませ、幸せを与えてくれた家族に次は私がらチームであるべきではないだろうか。今のような知いのだろうか。今まで、私を楽しませ、幸せを与えてくれた家族に次は私がの趣味を知ります。父は釣りが好き、母は映画鑑賞が好き、兄はゲームが好き、の趣味や楽しみを互いに共有してはどうかということです。それが今の私の課題です。その課題を解決するために私には考えがあります。それは、家族一人一人違うの趣味や楽しみを互いに共有してはどうかということです。それは、家族一人一人違うの趣味や楽しみを重ね合わせた釣りが好き、母は映画鑑賞が好き、兄はゲームが好き、私は音楽を聴くことが好き。そして、それぞれの「好き」を重ね合わせます。例えば、釣りとゲームを重ね合わせた釣りがけったります。それは、家族一人一人違うとの課題を解決するだけのようにして会話を続けているのだろうか。そうすることで、同じ楽しさを家族全員で共有することが、おりとがいるだけのようです。本当は、もっと会話を続けまるで、同じ台詞をただ読んでいるだけのようです。本当は、もっと会話を続けまるで、同じ台詞をただ読んでいるだけのようです。本当は、もっと会話を続けまるで、同じ台詞をただ読んでいるだけのようでは、までは、までは、もっと会話を続けまるで、同じ台詞を表する。

です。
一学をまずは私から踏み出していきたいが、毎週日曜日は家族の都合がほぼ合います。そとは、毎週日曜日は家族の距離を縮めるともに開いてしまった家族の過ごす。この日を家族と過ごし、家族と過ごす。この日さを改めて感じたいです。また、時間の流れとともに開いてしまった家族の超合がほぼ合います。とくに、毎週日曜日は家族の都合がほぼ合います。とくに、毎週日曜日は家族の都合がほぼ合います。とくに、毎週第三日曜日は家族の担合がほぼ合います。

ど、まずは、私から。いつも、ありがとう。てくれる。普段は恥ずかしくて言えないけ兄という存在。家族という存在が私を育てという存在。私に良い影響を与えてくれる母在。やさしさやぬくもりを与えてくれる母いつもさりげなく守ってくれる父という存



### 大切な家族とのひととき

# 岐阜県各務原市立那加中学校 三年

青出木 翔悟

け。 もいれば、苦手が多くて日々何かに追われているような人もいると思いまもいれば、苦手が多くて日々何かに追われている人もいると思います。そんな人のりをつけて、充実した生活を送っている人もいるとき、といったように、メリ。例えば、部活を頑張るとき、ゲームを楽しむとき、といったように、メリみなさんは今、自分のやりたいことを思いっきりやって生活していますか

分を励ましてくれたのは、僕のおじいちゃんでした。でれを行動に移す力を、まだ出していないだけだと思います。そんな自いています。でも、こんな生活をしてはいけないと自分でも気づいていますだらと過ごして時間が過ぎてしまい、やりたい事をやれないような日が続たり、難しい事を後回しにしてしまう情けない自分がいます。休日もだらかりやりきる力をもっていても、一つのことに時間がかかり過ぎてしまっかりやりきる力をもっていても、一つのことに時間がかかり過ぎてしまっからやりきる力をもっていても、一つのことに時間がかかり過ぎてしまっ

大切な時間になっています。 ようになりました。ガラス越しの面会ですが、僕にとってかけがえのないんには安心してもらえるように週に一度、休みの日に家族で面会に行くす。しかし、以前よりも顔色が明るくなったように見えます。おじいちゃおじいちゃんは、とろみのある食事をとり、排泄もオムツを使用しています。今は、特別養護老人ホームでお世話になっています。車いす生活になった

りました。

いちゃんが施設に入所してから今年で四年目。コロナウイルスもだおじいちゃんが施設に入所してから今年で四年目。コロナウイルスもだおじいちゃんがあるけれど、おじいちゃんからも冗談を言ったりして、家の写真などを見せてあげています。「背が高くなったなぁ」とか、何回も同の話題や学校であった事など何気ないものだけど、たまにお出掛けした時せ手を振りながら出迎えてくれます。おじいちゃんとの会話は、ニュース会に行くと、自分で車いすをこいで迎えてくれ、僕の顔を見ると笑顔を見会に行くと、自分で車いすをこいで迎えてくれ、僕の顔を見ると笑顔を見らだがいちゃんが施設に入所してから今年で四年目。コロナウイルスもだちに

古の苦手を乗り越えるためには、僕は、一日一日を大切に生活するます。この苦手を乗り越えるためには、僕は、一日一日を大切に生活する意不得意があります。僕も完璧な人間ではないので課題がたくさんありなして、僕自身はどうでしょうか。まだまだ元気なのにやりたい事ができ対して、僕自身はどうでしょうか。まだまだ元気なのにやりたい事ができ対して、僕自身はどうでしょうか。まだまだ元気なのにやりたい事ができ対して、機自身はどうでしょうか。まだまだ元気なのにやりたい事ができがして、機自身はどうでしょうか。まだまだころで表があります。それにおりにがと経験し、やりたい事が思いどおりにできない僕のおじいちゃん。で苦難を経験し、やりたい事が思いどおりにできない僕のおじいちゃん。で苦難を経験し、やりたい事が思いどおりにできない僕のおじいちゃん。で

ためになることを考え、変わる事が大切です。今の自分から変わるのは難しい事だと思うけれど、るのは難しい事だと思うけれど、るのは難しい事だと思うけれど、しか家族で集まる事ができないけれど、これからもこの家族とのひとときを大切にしていきたいです。自分の課題を前向きな気持ちで捉えられるようになったのはおじいちゃんのお陰だと思います。今度会った時は感謝を言葉で伝えたいです。また来るからまっててね。



#### 一人じゃないということ

### 岐阜県各務原市立緑陽中学校 三年

久保田 啓太

「ああ、また週末が来る。」

ないだろう。父も母も色々聞いてくれたけど、心配させたくなくてあまり話さな 思われて、またレギュラーから遠のいてしまうかもしれない。チームメイトはみん ちを誰にも話せずにいました。チームの指導者に弱音を吐くと、やる気がないと いになってしまったということだけははっきりと言えました。でも、僕はこの気持 そうじゃないのか自分の気持ちだけど説明ができずにいました。ただ、野球を嫌 られることはないと感じたこと。勉強の成績が落ちたこと。これらが理由なのか ませんでした。何が嫌なのか分からない。試合で打てない日が続いていて、練習し った。週末の練習が楽しみでうきうきと鼻歌交じりで野球の準備をしていたのに。 心細いような独りぼっちみたいな気持ちでした。 いようにしていました。なんだか僕だけがみんなと違う方向を見ているような、 な生き生きと楽しそうに見える。キャプテンの気持ちだってどうせ誰にも分から テンなのにベンチスタートでいること。キャプテンは怒られることはあっても褒め ても練習しても結果が出ない焦り。ポジションを仲間に代わられたこと。キャプ じゃない僕に気づいた母が、何が原因かと聞いてきたけれど、うまく言葉にでき 土日の練習を考えると吐き気がするほど憂鬱な気持ちになりました。楽しそう につれ、モヤモヤとしたよく分からないものが心に溜まっていき、金曜日の夜には、 生の秋頃から野球に対する気持ちが少しずつ変わっていきました。週末が近づく はありませんでした。なぜなら、とにかく野球が大好きだったから。でも、二年 テンにだけ厳しい言葉が飛んでくることもあります。でも全然嫌だと思ったこと ャプテンも務めています。野球は辛いことの方が多い。早朝から日没まで、夏の炎 金曜の夜、憂鬱な気分で野球バッグに道具を詰める。一年前はこんな風じゃなか 天下、冬の凍える寒さにも耐え、激しい練習を続ける。時には指導者からキャプ 僕は小学二年生から野球を始め、今は、硬式野球のクラブチームに所属し、キ

と言って、それから黙々と八〇〇球の打撃練習に付き合ってくれました。バッテをじっくりと頷きながら聞いてくれたのです。しばらく話した後、「よしやるぞ。」ーチの反応は違いました。いつもの元気な笑顔で迎えてくれ、僕のかっこ悪い話を知ったら大好きだったコーチががっかりするだろうと思ったからです。でも、コうだ。」と言いました。僕はあまり気が進みませんでした。活躍できていないことろでした。ある日、父が「久しぶりに小学生の時の野球チームを訪ねてみたらどろでした。ある日、父が「久しぶりに小学生の時の野球チームを訪ねてみたらどろでした。ある日、父が「久しぶりに小学生の時の野球チームを訪ねてみたらど

思うようになりました。

思うようになりました。

(は一人じゃないのかもしれない。そう思うことができてかなったようでした。僕は一人じゃないのかもしれない。そう思うことができてかぞ。」って言ってくれたように聞こえました。心細かった心がなんだかふっと軽くコーチの馬鹿でかい声で言った「いつでも来いよ。」が、「がんばれよ。応援してるコーチの馬鹿でかい声で言ったがら、きっと心配してくれたんだと思いました。帰る時、ィングが不調だって言ったから、きっと心配してくれたんだと思いました。帰る時、

ました。コーチは言いました。 大事な試合が終わったある日、勇気を出してチームのコーチに思いを話してみ

がとう。」
「勝てたのは啓太がキャプテンとして今日まで頑張ってきてくれたからだ。あり

ました。と。コーチの言葉が本当にうれしくて、堅くなった心が溶けていくような気がし

持ちを話してみました。仲間の一人が言いました。 キャプテンとして監督に怒られた日にも、チームの仲間に思い切って自分の気

みんなが悪かったと思うよ。」い。自分で気付いて動けないチームの「あれはキャプテンが悪いんじゃな

た。 頑張っていこうと思うことができまし葉に励まされ、またキャプテンとして、 をでいまされ、またキャプテンとしてんだと気付いた瞬間でした。仲間の言一緒に悩み、考えてくれる仲間がいた

思います。一人じゃないんだから。とうせ誰にも分かってもらえないと、いっかり顔を上げて周りを見渡せば、「いっている人は必ずいる。このことに気付ている人は必ずいる。このことに気付ている人は必ずいる。このことに気付でも聞くよ。」と、そっと見守ってくれでも聞くよ。」と、そっと見守ってくれがたから僕は強くなれました。このたりする日が何度も来ると思います。でも、きっと大丈夫。そんな時は、いたから僕は強くなれました。このは僕のほうだったのかもしれない。顔を上げて周りを見渡せば、「いつもうつむいたままでいとがいます。一人じゃないんだから。



### あなたは人を尊重していますか?

#### 岐阜県各務原市立蘇原中学校 三年

#### 泰希

俺はこの市をどの市よりも暮らしやすい市にするんや!

う思いました。 ないと、父は真剣な表情で私に話をしてくれました。「格好いい」素直にそ いきました。今、日本は平和です。この悲しい歴史を二度と繰り返したく 時、自衛隊基地がある各務原市は空襲にあい、多くの人の命が亡くなって 家族でドライブをしていた時、父が言った言葉です。第二次世界大戦の

たいと強く思いました。 自分も父のように、将来、自分の住んでいる地域を、国を、良くしていき

なのは駄目です。暮らしやすい国とは言えません。 生活が送れなくなるのではないかと。問題が解決できないまま、深刻化し 抱える問題を調べていくうちに、どきっとしました。このままでは、楽しい 日本は存続できるかどうかの分岐点に立っているということです。日本が 者、介護、労働、貧困など数えきれません。つまり、多くの問題を抱える ていけば、一人一人の自由が奪われてしまうのではないでしょうか。そん 日本が抱えている問題は様々な分野にわたります。同和問題、障がい

くうちに、二年生の時の生徒会活動で学んだ「尊重」こそが重要な鍵だと では、将来に備えて、今、私たちにできることは何でしょうか。考えてい

部の皆と話し合いをしていました。 生徒会長を務めていた私は、来年度に行う体育祭について、生徒会執行

体育祭はドッヂボールがいいと思う。皆好きだし、盛り上がるから。」 もちろん皆も賛成してくれると思っていました。しかし、

「それは違くない?」

「体育祭だし、新しい競技にした方がいいんじゃないかな。」

とを思い出して、ふつふつと怒りがわいてきましたが、ふと父の話を思い 出しました。父はその日、会議で提案したことが受け入れられ、とても嬉 た。なぜ否定されたのかを考えもしませんでした。家に帰った後も、このこ で悲しく、怒りさえ覚えました。無理やり、自分の意見を貫こうとしまし 仲間から返ってきたのは反対の声。私は、自分の意見を否定されたよう

「尊重されるのは嬉しい。だから、自分も人

のことを尊重しないといけないな。

どの子を見ても笑顔でした。 め、発揮できる競技にしたい」という執行部の皆の意見を取り入れて決定 ました。そうして決まった競技が綱引きです。これは「学級の団結力を高 た時、学級の皆が両手を上げ、ありったけの声を出して喜んでいました。 しました。そして、今年の五月二十四日に行われた体育祭。綱引きに勝っ なりました。自分も父のように皆の意見をきちんと聞いてみようと思いま 付け、その相手の意見は聞かなかった。そんな自分の傲慢さが恥ずかしく した。後日、私は仲間に態度が悪かったことを謝り、改めて話し合いをし 私はその日の自分の態度を振り返りました。自分の意見を相手に押し

めっちゃ楽しかった!」

ったと心の底から思っています。尊重していくことの大切さを実感した出 来事でした。 あの時、仲間の意見をよく聞いて、受け入れることができて、本当によか

ず、同じ人間として認め、誰もが受け ば、同和問題。岐阜県も同和地区が未だに存在します。昔の考えに囚われ 話し合えば、良い方向に向かうことができるのではないでしょうか。例え 私は、日本が抱える様々な問題も同じだと思います。人と人、国と国が

がっていくはずです。 尊重」を大切にしていけば、解決につな くなっていくのではないでしょうか。「 入れられれば、そんな悲しい場所もな

ていますか? んに問います。あなたは人を尊重でき だからこそ、ここで、自分自身に、皆さ ていきます。それは皆さんも同じです。 にし、この地域の、日本の、未来を担っ す。私は、これまで以上に、尊重を大切 る問題を解決できるのは私たち自身で 今起こっている問題、これから起こ

